



長 井 葉 山

これは長井・白鷹方面から九里学園高等学校に通学させている保護者の皆さんに対し、PTA 活動の様子などを伝える広報誌です。タイトル「葉山のまなざし」は長い間、長井市で暮らしていた私が、毎日米沢に通勤するとき朝夕私を見守っていてくれた雄大な葉山に対し感じていた思いなどを込めて考えたタイトルです。

22 年度卒業を祝う会開催

去る平成 23 年 2 月 12 日、長井市成田の「はぎ苑」で 22 年度の 3 年生 2 名の「卒業生を祝う会」が行なわれました。

この学年の前までは、少なくとも白鷹西・東中学校から 3~4 名、長井南中から約 10 名、長井北中から 4~5 名位はコンスタントに新入生を迎えていたのに、様々な理由があって白鷹の中学校からは誰も入学せず、長井北・南中から各 1 名ずつの生徒以外は誰も入学しないという過去に無い少人数の新入生を迎えた記録的な年でした。

入学後初めての保護者会(5 月)のとき 2 名(浅井さん・小池さん)の保護者をお招きし PTA 活動の説明を青木会長がなされたときも、小池さんから「二人しかいないのでは 2 人とも役員をしんなねなだごでな」と質問され「まあ、そういうことになるとおもいます」と大変恐縮しながらお答えした青木会長の困り顔は今でも脳裏に焼きついています。

その後、長井・白鷹支部 PTA はお 2 人の強力な役員メンバーを得て青木会長を中心に、まるで「佐渡の朱鷺」が増殖いて行くが如く生徒数を現在の人数まで戻していただきました。生徒募集は学校の仕事ではありますが、PTA のみなさんの「くちこみ」というのがやはり地域社会に一番浸透して行くものと私は感じています。

皆様方のご協力・ご尽力に感謝いたします。今後とも生徒募集にご協力よろしくお願いいたします。



式のご挨拶より

九里廣志学校長

長井・白鷹の子供たちは夜遅く帰宅し、また早朝列車に乗って登校してくる。それだけ自分の目標を持って登校してくるのだから頑張っている生徒が多いのでしょう。約 30 人の生徒のうち 6 人が東北大会以上の大会に出場しているし、野球部の中心選手も多く、また文化部や生徒会の中核として頑張ってくれています。他の地区に比べたら本当に素晴らしく成長していると思います。3 年生の 2 名も陸上でインターハイに出場した浅井さん、野球部の 4 番バッターの小池君ととても頑張った子供たちでした。

青木文雄会長

お 2 人のご卒業誠におめでとうございます。役員として御協力いただき、お 2 人とも思い出深い方々となりました。今後の子供たちのご活躍をお祈りいたします。

浅井智佐さんの母

娘は最近、親を思いやるという行為ができるようになった。きっかけは 2 年生のシーズン中故障で思うように練習が出来なかったとき、以前ならへこたれていたのに「なにくそ」と自分を奮い立たせて努力することができてから、自分に自信がもてるようになってからだと思う。ここまで成長させていただいた、先生方や陸上部の監督・コーチの皆さんに感謝しています。山形大学進学後も陸上を続けるので、時々学校に足を向けるとおもいますがよろしくお願いいたします。

小池啓友君の両親

双子の兄弟だったので、公立高校に行った片方とついつい比べてしまうが、啓友は野球をしたくて九里に通っていたわけだが、中学時代から「守備は良いがバッティングが」といわれていた息子で、まさか 3 年の大会で九里の 4 番を打たせていただけるまでに成長することができたとは、本当に夢のようでした。啓友は自分の弱点であるバッティングを良くするまでに、帰宅後もバットを振り続けていました。息子をその気にさせて努力するようにご指導いただいた野球部の監督・コーチの皆さんに感謝しています。大学も推薦で合格させていただきましたので、公立に行った息子よりもお金がかからないで大学受験を終えることができました。有難うございました。

年度賞授賞式

支部活動には「東北大会以上の大会に出場し頑張った生徒に対し激励金を授与する」という規定があります。今年度の受賞者は以下の通りです。青木会長より保護者の方々に授与されました。

3年生	浅井 智佐 (長井北出身)	陸上部	インターハイ・国体出場
2年生	左右田和馬 (長井北出身)	卓球部	東北選抜大会出場
2年生	長谷川智子 (白鷹東出身)	陸上部	東北新人大会出場
2年生	遠藤 翠 (長井南出身)	陸上部	東北新人大会出場
1年生	安達恭平 (長井北出身)	陸上部	国体出場
1年生	高橋七海 (長井北出身)	陸上部	全国都道府県駅伝・東北新人大会出場

みなさんおめでとうございます。この他にも支部出身の生徒は多方面で頑張っています。



授与 青木会長から浅井さんへ

葉山のまなざし

長井葉山はなんかコッペパンみたいな、ミニ山脈みたいな不思議な形です。米沢から白川橋を渡ると葉山の西端が見え始め、成田辺りから見ると雄雄しく威圧感のある山ですね。その裾野をフラワー長井線が、九里に通う生徒たちを、雨の日も雪の日もどんな時も運んでくれます。私は川西町から長井まで学生時代通学していました。以前の長井高校があった早苗が原は田んぼしかなく、南長井に列車が着いてからわらわら下駄をガラガラいわせて列車に滑り込むのを学生も運転手も確認できたくらい田舎でした。学生にとって列車通学という通学方法は、少し大人になったような気持ちにさせてくれました。夏などは時庭を過ぎて西日の強い窓を開け放ち白川の冷涼な風を車内にいれ、仲間と勉強や部活の話や青年期の秘密の話などをしながら通学したのを覚えています。フラワー長井線の沿線では経営難で苦しむフラワーの存続運動を展開しています。私にとっても思い出深い長井線をぜひ存続させていただきたいとエールを送っています。

新入生の勧誘で西置賜の中学校にお邪魔させていただくと必ず言われるのは「九里ではスクールバスださねながっし」とか「保護者の多くはスクールバスあつと便利だげんどもな、と言ってますよ。九里もバス出したほうが良いんじゃないの!？」と言われます。確かに家族のかわりに学校と家の往復をスクールバスで送迎してくれることは安心なのかもしれませんが、学生が長井線を利用しなくなったら長井線の経営ができなくなるのではありませんか??長井市民・白鷹町民の皆さん。学校の始業時間に間に合う公共の乗り物があるのに利用させないで、利便性を追求している過保護なしつけに私などはうんざりしているのです。スクールバスを運行させることは単純な作業でできるわけですが、長井線の存続運動と子供のしつけを考えたら「米沢までだったら、今泉で乗り換えて自分で列車さのって通わんなねごで」、「列車時間さ間に合うように行動しんなね」、「おらんだだつてそうして来たんだぜ」と教えて通わせることが親のしなければならない教育だと思います。きつと九里に通学させてくれている保護者の方は、このようなことを子供たちに教育してくれている方であると私は思っています。だから子供たちは伸びるんですね。努力するんですね。子供に頑張らせて自分で歩ませる教育をもっとさせるべきではないでしょうか。

大滝

インホメーション

青木文雄会長のフォークグループ「影法師」の結成 35 周年を記念して発行された本「『現場歌手』35年『影法師』という生き方」が好評発売中です。長井市内の物産館や書店でお求め下さい。私も読ませていただいて「んだよな～」と共鳴することがたくさんありました。CD もついているのに 2000 円で買えるのが、かなりお徳と思います。本を買っていただいた保護者の方は PTA の会合に持参いただきますと青木さんのサインがもらえます。



後記

先日、PTA の新年会で長井へく々に行きました。そのころは雪が毎日降っている大変なところで、白川橋の手前から渋滞し、大変な思いをしました。長井線の運賃が高いので今泉駅まで学生を送迎する車が増えているのだそうです。白川橋を越えると GS の向かいにある九里の卒業生のお宅でやっている車やさんが、とても大規模になっているのにおどろきました。「支部役員の渡部日出人さんの勤務先オートセンターズブンもよろしくお願いします。」

九里学園の地区 PTA は、高校生になるとなかなか学校の様子や先生方との交流が疎遠にならないように、通学学区ごと組織されています。九里廣志校長は必ずその支部の会に参加し、保護者の皆さんとお話します。同じ小・中学校出身の保護者同士が集まるので、いろいろ悩みや話して盛り上がり、とてもよい交流の場になっていると思います。広報誌「葉山のまなざし」は不定期ながら会の様子を盛り込んで(内容をリアルに伝える為に一部長井弁で)発行していきたいと思っています。